

平成29年度 第2回岡山県グリーン購入対策会議 【議事概要】

日時：平成30年2月22日（木）

13:30～14:30

場所：ピュアリティまきび

2階 エメラルド

1 開 会

司会：循環型社会推進課 加島総括参事

2 開会あいさつ

片山環境文化部次長

3 議 題

(1) 再生品使用促進指針及び岡山県エコ製品の判断基準の一部改正について

＜循環型社会推進課 足立主任＞

※資料（再生品使用促進指針及び岡山県エコ製品の判断基準の一部改正について）説明
【質疑】

＜委 員＞ 資料p9の共通基準④ただし書きについて、間伐材の記載があるが、今回のクリーンウッド法施行による改正は受けないのか。

＜事務局＞ 確認の上、改正等の対応をさせていただきたい。

※上記事項について、事務局にて確認を行い、改正案について修正を行った。

・判断基準について、原案どおり改正することが適当と判断された。

(2) 岡山県エコ製品の認定審査について

＜循環型社会推進課 足立主任＞

※資料（岡山県エコ製品の認定審査について）説明

【質疑】

＜委 員＞ (株)エコボードの紙製エコボードパレットは、水には弱いのか。

＜事務局＞ 事業者からの聞き取りによると、どうしても水には弱いとのこと。

＜委 員＞ 更新申請が提出された製品中、販売実績が良い製品はどれか。

＜事務局＞ 公共資材関連製品が多いと思われる。

＜委 員＞ エコ製品は、従来製品と比較して、どれくらいの価格差があるのか。

＜事務局＞ 従来製品と比較して、概ね10%増程度の価格と考えられる。

・申請のあった製品について、幹事会などの意見も踏まえた上で、認定することが適当と判断された。

(3) その他

< 委員 > 最近、環境分野については様変わりをしてきている。一番大きいのは再生エネルギーであり、太陽光発電や風力発電など、様々な国で広がっており、エネルギー事情が変わってきている。

また、ある企業では、リサイクルしやすい物を使用して製品を製造するなど、設計段階でリサイクルしやすい製品を製造する取組をしている。すなわち、今後はリサイクル製品が廃棄された場合に、さらにリサイクルしやすい物となるかどうかという視点も重要と考える。

今後の展開として、循環資源について、何がどれくらい出ているのか、生産側でどれくらい使えるのか、という循環資源の発生側と生産側をつなげる発想がそろそろ必要ではないかと思う。

< 委員 > 大きな転換期が来ているのではないかと思う。

中国ではいち早く環境分野に取り組んでおり、バスはほとんど電気駆動となっている。

岡山県は環境先進県であることから、新たな環境政策の転換が必要なのではないかと思う。

< 事務局 > 本県としても、昨年度、環境基本計画の改定や第4次廃棄物処理計画の策定等を行っており、定量的な把握が出来ているものと出来ていないものがあるので、引き続きご意見を参考に、環境先進県といえるよう、進めていきたい。

< 委員 > 新規エコ製品認定の資料において、各判断基準への適合性を判断する際、今回は現場確認等の資料が添付されていたと思うが、「適」と判断した根拠資料をもう少し用意した方が良いと思う。

また、各市町村におけるグリーン調達の取組状況について、アンケート等により意識付け・把握をすればいいのではないかと思う。

< 事務局 > 各判断基準への適合性判断資料については、今回はバッグ等一般消費者向け資料が多かったため、分かりやすい資料としている。

次回以降、いただいたご指摘を踏まえ、資料を作成していきたい。

また、県内市町村におけるグリーン調達の取組状況については、環境省において毎年、取組状況を調査している。

取組状況は市町村によりバラツキがあり、県に準ずるレベルの指針策定を行い、組織的に取り組んでいる自治体もあれば、人力的余裕が少なく、取組が出来ていない自治体もある。

昨年度も県独自でアンケート調査を実施したところであるが、引き続き、各市町村に対して意識付けをしていきたい。

< 委員 > グリーン調達ガイドラインを策定している市町村は4市か。

< 事務局 > 環境省調査によると、H29年度では6市町である。

< 委員 > 津山市は策定しているのか。

< 事務局 > 津山市は策定していないが、環境計画の中に入れ込んでいる。

< 委員 > 和気町は策定しているのか。

< 事務局 > 和気町は策定していないが、組織として取り組んでいるとのことである。

< 委員 > 市町村で取り組んでもらうためには、どのような取組が必要なのか。

< 事務局 > 特に町村レベルにおいて、人員不足を解消する必要がある。

< 委員 > 今回の改正内容で「植物を原料とする合成繊維」や「未利用繊維」という新しい言葉があるが、県として今、動いている状況はあるか。

< 事務局 > 県北部の森林を用いたセルロースナノファイバーについては、県産業労働部において、製品化への適用について取組が進んでいる。

4 閉 会